令和５年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　中１６　光が丘第二中学校

	課題分析	授業改善策
国語	・授業内では理解できていても、知識が定着しづらく、定期テスト等で正確に答えることができない生徒が見られる。 ・意見の説得力を上げ、他者に自信を持って伝える力を育む必要がある。 ・他者の意見に対して疑問をもたないため、深まりがない。 ・時間内に課題に対する文章を書くことへの苦手意識をなくす必要がある。	・漢字ノートの自主学習と漢字の小テストを定期的に行い、インプットとアウトプットを習慣化させる。 ・テーマに対して自分の意見を持ち、相手に的確に伝える練習をペアやグループで行わせる。その後振り返りをし、自分の課題を考えさせる。 ・話合い活動において、進行の仕方や質問の仕方を提示するとともに、机間指導を行う。効果的な話合いができていたグループの内容を全体に伝えていく。 ・決められた字数・時間で自分の意見を文章化する活動を増やしていく。また、説得力のある文章とそのポイントを提示した上で、他者の文章を読んだり、自分の意見を見直したりして、改善点を見出す授業を展開する。
社会	・基礎的な知識の定着ができておらず、資料の読みとりや思考を伴う問題に対して苦手意識をもっている。 ・熱心に授業に取り組む生徒が多く、発言が活発である。しかし、知識・技能の定着等に課題がある。	・ICT 機器を用いてデータ資料を使い、資料の分析力を養うとともにその意義も理解させる。 ・単元評価シートを採用し、単元の見通しをもつことで、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ・単元を貫く学習課題で、前後の単元とのつながりを意識し、復習と予習を兼ねた課題を設定する。
数学	・基本的な計算問題を解く「技能」を持ち合わせている生徒は多いが、式の形が複雑になると正しい答えを導くことができない生徒が増える。 ・「思考・判断・表現」の問題になると、既習事項を生かすことができず、正解を求められない生徒が増える。 ・短答式の問題の正答率に比べ、記述式の問題の正答率が低くなっている。	・どのように計算したのかというその過程を説明させ、他の生徒が理解できているのか確認する機会を設けること。 ・同じ問題を扱うにしても、発展クラスでは他の生徒に解き方を説明できるようにすること、基礎クラスでは立式できるようにすることを目標にするなど、習熟度別少人数授業の特性を生かすこと。 ・普段から、「なぜこのようになるのか？」という問い掛けをしていくとともに、生徒に説明させることで、論理的な思考を身に付けさせていくこと。
理科	・実験や観察には、意欲的に取り組んでいるが、結果をノートやプリントにまとめることに時間を要している。 ・基礎的統計処理等、数値処理に課題が見られた。 ・科学的思考力を高める指導を計画的、継続的にしていく必要がある。 ・目に見えない事象についてイメージがもちにくい。	・実験・実習の機会を多くし、本物に触れたり、生活体験として捉えたりする機会を増やして関心・意欲を高めながら、学習内容の定着を図る。 ・視覚的に分かりやすくするために、ICT 機器を効果的に使用して映像や教材の工夫をしていく。 ・タブレット端末を活用した調べ学習などの課題を行い、自主的に学ぼうとする態度を養う。

音楽	・授業の内容を理解していても、それを応用して課題を解決する創造力が不足している。 ・授業への関心・意欲は高いが、自分の意見を他の生徒の前で発表することが少ない。 ・みんなの前で歌うことへの抵抗が見られる。 ・ICT 機器等を効果的に活用し、学習のねらいを達成させることに課題がある。	・応用して課題を解決する創造力を育むため、鑑賞や音楽の基礎および、課題を解決する力を段階を追って身に付けさせる。 ・鑑賞の感想を発表し合ったり、プリント学習の答え合わせで挙手性にしたりと、授業で積極的に発言をさせる。 ・合唱コンクールに向けて、声を出すことへの抵抗を減らせるよう、毎時間、発声のルーティンを行う。 ・生徒一人一人が ICT 機器を使用しデジタル教科書を通して、視覚的にも聴覚的にも分かりやすい授業を目指す。
美術	・スモールステップの学習により、丁寧に学習することができている。制作速度を上げさせたい。 ・忘れ物を減らす。 ・美的関心と美的意欲をもたせる。 ・既習学習を基に、自分なりの発想へと進むことができる制作を行わせる。	・授業用具を忘れないように。授業まとめの時間に次回の持ち物と学習内容の説明と、クラスへ次回の授業持ち物を記入した用紙。授業前日に教科係からの持ち物連絡と三重に連絡。また、時短を狙い。ペーパーパレット等の新しい教材の導入、タブレット端末の活用を行いつつ、考える力の向上も行う。
保健体育	・授業の指示を言葉だけで（耳で）理解することが難しい。 ・自分の言葉で、わかりやすく伝えることが苦手である。 ・基礎的な動きの習得が不十分なため（幼少期の外遊び等の経験が不十分なため）けがをしやすい。	・目標、動き方、流れなど、視覚的に理解できるよう ICT 機器やホワイトボードを利用する。 ・動きのコツやポイントの説明を丁寧に行う。 ・考えたり、振り返ったりする時間を設定する。 ・多様な運動を取り入れたり、けがや事故防止の観点を説明したりして、けがや事故が起きない環境を設定する。

技術・家庭	・構想図の学習を苦手とする生徒が見られる。完成図を思い描けずに学習が進めない状態となる ・学んだ基礎的な知識や技術を実習に活用し、作業を丁寧に行うよう指導していく必要がある。 ・小学校の図工授業との違いについて気付かせ、目的に適した工具の選択や使用について学習させる必要がある。 ・「D 情報の技術」等では、授業内容を理解していても応用して実習課題を解決するための創造力が不足している。 ・技術科の授業だけではなく、学習内容に関連する他教科の学習を応用する意識や能力が不足している。 ・PC の基本的な操作方法は身に付いているが、自分で考えて応用する操作には習熟の差がある。	・実習での作業目標・内容を伝え、作業がうまく進められない生徒には個別的に指導を行う。 ・学習形態を工夫して、協力し教え合う態度を育てる。 ・作業の進度に違いが出ないように製作進度を調整する。丁寧な作業の重要性を伝える機会を設ける。 ・仕事の楽しさや完成の喜びが味わえるよう製作段階でつまずく生徒に対して、ワークシートの活用や補習による個別指導を指導計画に入れる。 ・ICT 機器やタブレット端末を活用し、視覚的な理解を深め、興味・関心が高まるような動機付けを行う。 ・生徒全員が達成感を得られるような作品になるよう、仕上げまでアドバイスを行う。 ・積極的に発言する、自分の考えを表現・発表する姿勢・環境を作る。 ・振り返りのレポート等の提出物チェック、実技テストも実施する。
	・自分の考えを書いたり、まとめたりする際になかなか取り組まない、適当に済ませてしまう生徒が見られる。 ・考えはしっかりと書けているが、挙手や発表ができない生徒が多い。 ・被服実習は苦手とする生徒が多いため、進度や習熟度に差が出ている。	・机間指導を行い、声掛けや助言をしながら生徒の考えを引き出したり、一緒に考えを膨らませたりしていく。 ・周りの生徒と意見交換・共有することで自分の考えに自信をもたせる。机間指導も行い、書いた意見に対して声掛けをしていき、発言しやすい雰囲気を作っていく。 ・苦手な生徒に対しては、基礎基本の定着を図るために個別指導、得意な生徒にはリトルティーチャーとして他の生徒の補助を行いながら、進度に大きな差が出ないようにする。
外国語（英語）	・リスニングや簡単なやり取りはある程度できるが、単語のスペリングや英作文での文法上のミスが見られる。 ・発表では原稿はよく書けているが、自信を持って大きな声ではっきりと発音できていない。 ・タブレットを使った発表を行ったが、時間がかかってしまった。	・ビンゴや単語テスト、基本文テストなどの回数を増やして基本単語や文を正確に書けるように指導する。 ・発表では教師がモデルを示し、十分な練習をさせる。発表後には振り返りシートを使い、次回の発表につなげる。 ・タブレット端末でスライドを作り、十分な準備を行い発表させる。